

ひろぞとをめぐ

（家語落と師談講の演口誌本）

枝燕亭柳

うこお妻鯉松

鯉松田神

んげお妻香四

香四亭遊三



るつお妻枝燕

錦城齋山

貞山妻

燕如川桃 しとお妻右四 右四亭遊三 れつお妻水貞 水貞川卓

うこお妻山貞 山貞齋龍一（央中）

うこお妻州蘆

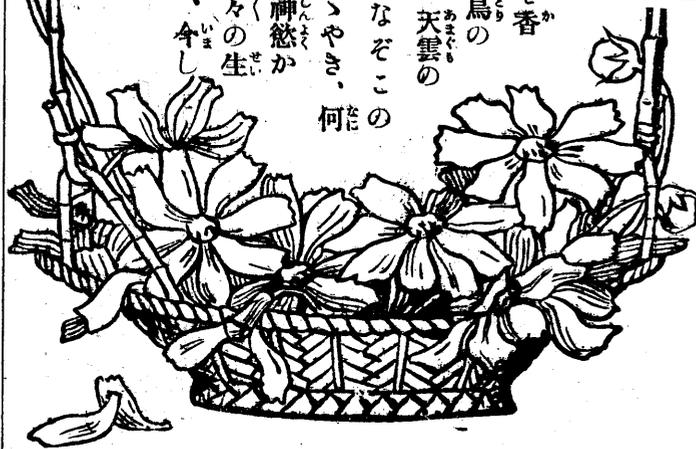
州蘆井金小

にこお妻燕如

刊増 卷二十第 界世學女

花鏡

春の野にかげろふもゆる艸の上、胡蝶となりて香に酔はん、天津乙女よ、花の姿よ、青春十八、彩鳥の寛のかんむり、誰が爲めにかかざる、青春十八、天雲の霞のころも、誰が爲めにか粧ふ、かざしの花よ、たなごこの玉よ、深窓にみごもる名玉よ、御身は今何をかさしやき、何をか語る、戀のさしやきか、榮譽のあこがれか、精神慾か、物的か、そもく又一路向上の聲なるか、煩々悶々の生活の叫びなるか、花籠の満載せる金色の文字、今しはし秘めさせたまへ。



一月十五日發行

菊判紙數二百〇八頁

口繪石版寫真版豐富

定價二十錢郵稅二錢

東京日本橋區本町三丁目

博文館

振替貯金口座東京二四〇番

文(36)